

福岡大学筑紫病院の理念
あたたかい医療

「基本理念」

私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。その基本は「人間性に立脚した医療」、心の繋がりを大切に、患者さん本位の“あたたかい医療”を実践しています。

「基本方針」

1. 安全、安心な思いやりのある医療の実践
2. 大学病院として、高度先進医療の提供
3. 地域医療支援病院・地域がん診療病院として、情報発信とともに地域医療への貢献
4. 開かれた質の高い多職種協働によるチーム医療の実践
5. 患者の尊厳を尊重し、倫理観を備えた優しい心を持った医療人の育成

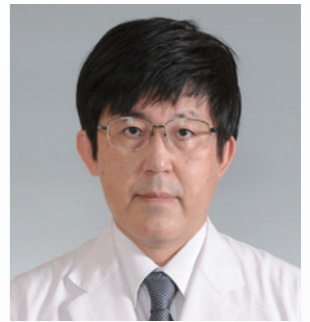
福岡大学筑紫病院ニュース

ちくし



整形外科

ご挨拶 整形外科 診療部長 伊崎 輝昌



令和4年4月1日付で整形外科診療部長に就任しました伊崎 輝昌（いざき てるあき）と申します。初代松崎昭夫名誉教授、2代目塩田悦仁准教授（当時）、3代目柴田陽三教授に続いて私が4代目の診療部長となります。後に述べますが、自身2回目となる筑紫病院勤務を教授・診療部長として携われますこと、大変光栄に存じますと同時に身の引き締まる思いです。

私は北九州市門司区出身で、福岡市で高校生活を過ごし、昭和63年に琉球大学を卒業しました。卒業と同時に故高岸直人名誉教授が主宰される福岡大学医学部整形外科学教室に入局し、大学院では、故緒方公介教授のご指導で、肩関節における投球障害の病態解明を課題として解剖学的研究、バイオメカニクス研究、さら

にこれに対する関節鏡手術の成績に関する研究を行いました。これまで、大分県（別府・大分・宇佐）、福岡市の関連施設と平成12年から6年間筑紫病院での勤務歴があります。筑紫病院は平成25年5月に9階建てのモダンな新病院となりましたが、自身の前回勤務時は昭和60年7月に開院されたままの旧病院でした。筑紫病院では松崎昭夫名誉教授にご指導を受け、肩関節外科と脊椎外科を担当しておりました。前任地である福岡大学医学部・福岡大学病院では、内藤正俊名誉教授、山本卓明教授のご指導のもと、肩関節に関する診療・研究に従事するとともに学部学生の教育、大学院生への研究指導を行って参りました。

主な専門領域は、前任の柴田陽三教授と同じく肩関節疾患の病態解明・治療です。

日本医療機能評価機構の認定を受けました

当院は、病院の機能を第三者の立場で評価を行う、公益財団法人日本医療機能評価機構の「病院機能評価(3rdG:Ver.2.0)」審査を受け、令和4年2月4日付で認定されました。

審査の結果、以下の3項目で
最高ランクのS評価を受けました。

- 1 医療関連感染制御に向けた情報収集と検討を行っている。
- 2 褥瘡の予防・治療を適切に行っている。
- 3 必要な患者に継続した診療・ケアを実施している。

今後も今回の認定に甘んじることなく、福岡大学筑紫病院の基本理念「あたたかい医療」に基づき、患者さんのニーズを踏まえながら最も適切で質の高い医療を効率的にご提供できるよう、充実・向上に努めてまいります。

公益財団法人日本医療機能評価機構は、医療の質の一層の向上を図るために、医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価し、その結果明らかとなった問題点の改善を支援する第三者機関です。



「いきいき健康セミナー」の動画配信 (YouTube) を開始しました!

当院では、地域の皆様を対象とした「いきいき健康セミナー」を、令和4年3月より動画配信(YouTube)にて、公開しております。

ご自宅にいなから、お好きな時間に、パソコンやスマートフォンで健康に関する動画を視聴することが可能です。今後も医療や病気の予防に関する動画を随時公開していきます。

筑紫病院公式 YouTube チャンネルをぜひご覧ください。

第25回 がんセミナー

テーマ 「食道がんについて」

形式 福岡大学筑紫病院 公式YouTubeチャンネルにて配信中(約15分)

演者 消化器内科 医師 小野 陽一郎

早期発見が非常に重要だと言われている食道がんについて、その特徴や飲酒との関係など、わかりやすくお話ししています!

右記QRコードより
アクセスしていただくか、

コチラ



筑紫病院 公式 YouTube

で、検索し、ご視聴ください。

診療日のご案内

	循環器内科	内分泌糖病内科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	外科	呼吸器・乳腺外科	整形外科	形成外科(午前のみ)	脳神経外科	皮膚科(午後のみ)	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【受付時間】
〈平日〉8:40~11:00
※1 小児科の専門外来は要予約 ※2 皮膚科休診中

【休診日】
土曜日・日曜日・祝日
年末・年始(12月29日~1月3日) お盆(8月15日)

【面会時間】
〈平日・土曜日〉13:00~20:00 〈日曜日・祝日〉11:00~20:00
※面会の状況については、当院ホームページをご確認ください。

交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合
西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車徒歩3分
JR鹿児島本線「天拝山駅」下車徒歩3分

自家用車ご利用の場合車で5分
九州自動車道「筑紫野IC」より車で5分
県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安としてください。
※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。



整形外科は、運動器を構成するすべての組織、つまり、骨・軟骨・筋・靭帯・神経などの疾病・外傷を対象としております。専門領域である肩関節外科において若年者では、反復性肩関節脱臼や投球障害肩などのスポーツ障害、中高年者では、健康寿命の延伸を目指し、腱板断裂や関節拘縮、変形性関節症などの治療に取り組んでおります。

整形外科では教官6名と整形外科専攻医3～4名で診療にあたります。骨折や脱臼などの外傷性疾患から変形性関節症やスポーツ疾患など幅広い患者を受け入れる体制を整えており、エビデンスに基づく最先端の医療を提供いたします。令和2年度における直近3年間の年間平均手術件数は614件、一日あたり外来患者は49.0人でした。外来診療は、月・水・金に行っております。このうち初診患者は原則として整形外

科専門医の資格を持つ医師が担当いたします。超高齢社会を迎えた本邦では、高齢者の四肢脊柱外傷、変形性関節症による関節障害、さらに脊椎脊髄疾患など整形外科疾患も増加の一途を辿っています。外来および入院患者の診断や治療方針などについては専門領域にとらわれることなく週3回のカンファレンスを行い、最善の医療が提供できるよう心がけています。

これまでの経験を活かし当院の基本理念である「あたたかい医療」を具現化するため、患者さんのお困りごとの解決に向けて丁寧に寄り添って対応致します。また、福岡大学医学部整形外科学教室とも密に連携して、大学病院で行う先端医療はもとより、地域医療支援病院に求められる病診・病病連携や救急医療にもしっかりと対応して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

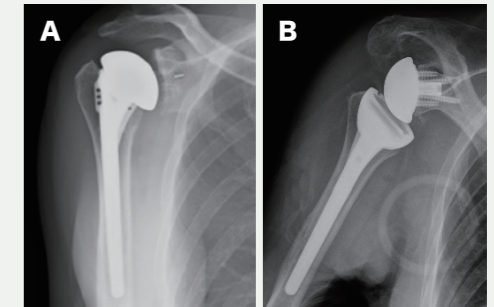


▲ 整形外科スタッフ (写真左より) 坂本哲哉講師、野村智洋講師、伊崎輝昌教授(診療部長)、柴田陽三教授、菟川創助教、小阪英智助教

Column 整形外科で取り扱う肩関節疾患・手術をご紹介します

1 リバース型人工肩関節全置換術

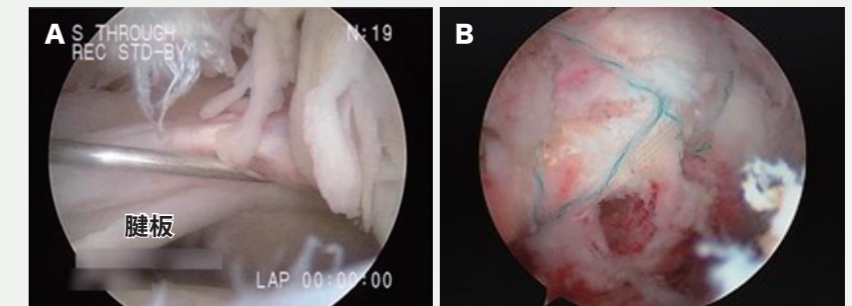
腱板断裂に伴う変形性関節症や修復困難な腱板断裂患者さんが対象となります。肩関節は、軟部組織(骨以外の靭帯や筋肉、腱板など)で支えられる割合が大きいのが特徴で、腱板がなくなってしまうと従来型の人工関節は使用できませんでした。本邦で2014年に認可されたリバース型人工肩関節は、この問題を解決できる人工関節です。欧州では30年の歴史がありますが、手術合併症が少なくありません。このため、本邦ではこの手術を実施するために施設や医師に厳しい基準が設けられています。年齢や関節の動き、関節変形の程度などの病態を詳しく調べて、手術対象となるか検討します。



A: 従来型の人工肩関節: 人工関節の構造は、もとの肩の解剖に似ています。
B: リバース型人工肩関節: 丸い部品が肩甲骨側に、その受け皿が上腕骨側についています。丸い部品と受け皿がもとの肩の解剖と反対になっています。したがって、反転型(リバース型)人工関節と呼びます。

2 腱板断裂

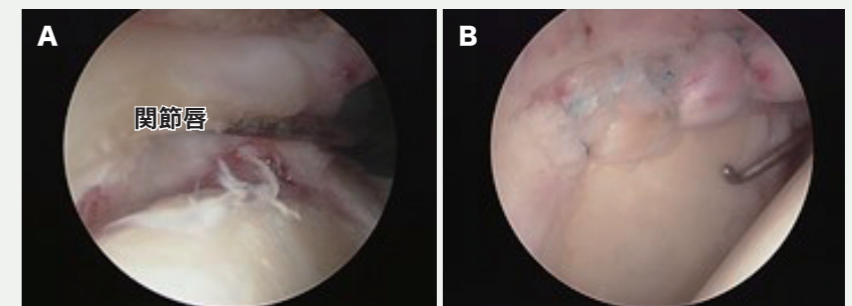
腱板断裂は、肩関節を支えている「腱板」という腱が断裂することが原因で痛みや動きの制限が生じます。腱板は、外傷がきっかけで断裂することもあれば、誘因のない場合もあります。このため、患者さんは、五十肩と勘違いし、病院を受診するのが遅れる傾向にあります。腱は4本あるために、1本ないし2本が断裂した場合には、適正なリハビリを行うと症状が軽快して手術をしなくても済む場合があります。しかし、断裂した腱板は、自然につながる事はありませんので、治療の選択には専門医のアドバイスが必要です。



A: 関節鏡で肩の中をみると、腱板が骨から外れています。
B: 骨から外れた腱板は糸を使って骨に圧着させます。

3 肩のスポーツ障害

スポーツによって生じる肩の障害には、多くの疾患が含まれます。代表的なものに、関節唇損傷、腱板不全断裂、インピンジメント症候群、ベネット症候群、末梢神経麻痺などがあります。多くは、スポーツを行うとき



A: 投球障害で上方の関節唇が剥離しています。
B: 剥がれた関節唇を糸で縫合しました。

だけの症状で、日常生活では問題はありません。一般に患者さんは、可動域や筋力は正常で、レントゲン写真にも異常がありません。大部分は、リハビリテーションでスポーツ復帰が可能です。効果が不十分で復帰不能な場合は、内視鏡手術でピンポイント修復を行います。